

☆放課後子ども教室☆

新しい1年が始まりました。クリスマスにお正月と楽しいイベントがいっぱいの冬休みは、子どもたちにとって、あっという間に過ぎていったことでしょう。インフルエンザの流行の波に乗ってしまったという子もいたようですが、3学期も元気にたくさん遊んで学ぶ場を作っていきたいと思います。

冬休み期間中、平日の活動はお休みでしたが、昨年末の12月23日(土・祝)に冬休み特別教室を実施しました。豊沢地区にある厚真町の環境保全林(町有林)での森遊びと、お正月の玉飾り作りを行いました。冬の森には子どもたちの好奇心をくすぐるモノがたくさんあります。その匂いを感じ取った子どもたちは、一面雪景色の森を前に遊びたくてウズウズ。森遊びの注意事項を確認して、探検をしながら遊び場になるところへと向かいました。道中、さっそく木を的にした雪玉当てが始まります。太さのある木の幹は初級編。徐々に狙いづらいつのものを選んでいき、上級編の細く風に揺れる小枝へとレベルアップしていきます。1人、2人と仲間が増えていき、競い合って投げた雪玉の行方に一喜一憂する姿は、とても可愛らしかったです。森の中にある緩やかな傾斜に囲まれたくぼ地は、開けていて見通しが良く、子どもたちが遊ぶには絶好の環境です。ヤマブドウの強くて長いツルを使ったターザンごっこや枯損木こそんぼくを拾い集めて作る秘密基地は、冬の森遊びの定番となりました。この日は気温も高く、ちょうど良い湿り気のある雪が降り積もっていたので、雪合戦や雪だるま作りも大いに楽しみました。厚真は夜に気温がぐっと下がるせいか、さらさらと固まりにくい雪質になることが多いので、なかなか造形物を作って遊ぶことができません。しかし、この日は簡単には壊せないような巨大な雪玉がいくつもでき、自分の背丈ほどもある雪だるまを作ることができました。木の枝や落ち葉を集めて顔や手をくっつけたり、基地の入り口にイスやテーブルを作ってみたり、子どもたちの発想力が自然の素材によって形になっていきます。ここには遊び道具があるわけではありません。そんな中でも、目の前にあるものを使って、楽しい遊びを見つけられる子どもたちが、厚真にはしっかりと育っています。スタッフである大人たちも、子どもたちが生み出すエネルギーに引っ張られて活動を展開できたように思います。子どもたちと大人たちのにぎやかな笑い声が響く森の中。空いた小腹を満たす美味しいたき火のおやつ。時間いっぱいまで遊び続けましたが、とても心地よい時間を過ごすことができました。お昼を食べて午後からは工作タイムです。環境保全林からおすそ分けしてもらった木の枝に、色とりどりの飾りを付けて、お正月の玉飾りを作りました。モナカなどで作るまゆ玉の代わりに、今回は毛糸でポンポンを作って飾ることに。見ているだけで癒される、なんとも可愛らしい毛糸は、町内の方が紡いでいるものを使用しました。毛糸ポンポンのほか、折り鶴や押し葉のラミネート、鈴やビーズなどを思い思いに飾り付けていきます。来たる2018年も良い年になるように、と願いのこもった玉飾りが出来上がりました。そこには、子どもたちが明るいお正月を迎えられるよう、スタッフ一同の願いもこめられていました。

年は変わりましたが、年度で数えれば残りあと2か月と少し。各学年の集大成である3学期の終わりには、6年生の卒業が待っています。年が明け、6年生と過ごせる時間も残りわずかだという実感が少しずつわいてきました。春が来るのが待ち遠しいような、来てほしくないような複雑な心模様です。今年度も気持ち良く終われるよう、体は軽やかに、心は穏やかに3学期も楽しみたいと思います。

